日本学校教育学会 第36回 総会（学会ＨＰ公示）

期　日：2021(令和3)年8月7日（土）～10月7日（木）

＜第36回総会について＞

オンラインでのリアルタイムで実施する「第36回総会」を仮総会と位置づけ，正式には学会ホームページ（ http://www.jase.gr.jp）上でのメール審議とする。

1　方法

リアルタイムでの仮総会を実施するのにあわせて学会ホームページ上に第36回総会資料を公示する。

2　公示期間

2021年8月7日(土)～10月7日(火)の2か月間を資料公示，意見受付期間とする。

3　総会の成立

議事内容に疑義がある場合には学会事務局までメールで申し出る。

意見受付期間までに反対の意見表明がない場合に承認されたものとみなす。

（日本学校教育学会総会運営規程第2条および第3条による。）

次　　第

1　2020年度　会務報告　　蜂須賀　洋一　事務局　　（資料１）… 1

2　第36回理事会報告　　蜂須賀　洋一　事務局　　（資料２）… 2

- 2020年度会務報告，各委員会活動報告及び活動計画
- **学会賞について**
- 2020年度決算及び会計監査，2021年度予算案について
- 会則他諸規定の見直しＷＧ報告
- 第36回研究大会について

3　各種委員会の活動報告及び活動計画

(1)　研究推進委員会　　原田　信之　委員長　　（資料３）… 3

(2)　国際交流委員会　　中山　博夫　委員長　　（資料４）… 7

(3)　機関誌編集委員会　　山﨑　保寿　委員長　　（資料５）… 9

(4)　実践研究委員会　　金井　香里　委員長　　（資料６）…11

4　2020年度決算及び会計監査　　湯澤　卓　事務局幹事　　（資料７）…13

5　2021年度予算案　　湯澤　卓　事務局幹事　　（資料８）…14

6　第36回研究大会について

2022年第36回研究大会は，日本大学（黒田友紀大会準備委員長）にて，オンラインで開催

※　学会賞については，資料２「第36回理事会報告」(2頁）を参照してください。

資料１

2020 年度(2020 年 8 月～ 2021 年 7 月)会務報告

事務局：蜂須賀洋一

１　2020 年度研究大会（ポスター発表）について

2020 年 8 月 11 日（火）～9 月 30 日（水）

・　第 35 回研究大会は，新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の拡大に伴い 1 年延期。その代替として，自由研究ポスター発表を実施した。

・　学会ホームページに上に公開し，会員の方々からのコメント（8 月 30 日まで）を書き込めるようにした。５つの分科会で 21 件のポスター発表，発表者に対し延べ 30 件のコメントをいただいた。

２　第 35 回研究大会の準備について

・2021 年 5 月 7 日（金）大会実行委員会（岩手大学）より「第 35 回研究大会（オンライン）の案内」を学会ホームページに掲載

・2021 年 7 月 5 日（月）大会実行委員科より「第 35 回研究大会プログラム」を学会ホームページに掲載

３　会報「ＪＡＳＥニュース」第 43 号発行について

2020 年 9 月 18 日（金）に発行。主要記事：会長挨拶，2020 年度研究大会ポスター発表報告，理事会報告，総会報告，他

４　常任理事会の開催について

以下の通り，３回の開催

・2020 年 11 月 29 日（日）第１回常任理事会開催（オンライン）
主要議題：会長委嘱理事について，各種委員会の活動計画について，第 35 回研究大会について，他

・2020 年 3 月 21 日（日）第２回常任理事会開催（オンライン）
主要議題：会則他諸規定の見直し及びＷＧメンバーついて，第 35 回研究大会について，各種委員会の活動計画及び報告，他

・2020 年 5 月 27 日（木）第３回常任理事会開催（オンライン）
主要議題：第 35 回研究大会について，会則他諸規定の見直しＷＧ中間報告，各種委員会の活動計画及び報告，他

５　会員数について

会員数：462 名（2021 年７月末現在，名誉会員６名を含む）
→2020 年度の増減
（増）入会者 45 名（2021 年度からの入会希望者 12 名を含む）
（減）退会者名 39 名（申し出によるもの 25 件，見なし退会等 14 件）

参考…2019 年度
会員数　456 名

※　詳細は発刊されます機関誌第 36 号の「2020 年度の活動記録」をご参照ください。

※　この報告には，以下の事項は含めておりません。
各委員会（研究推進，国際交流，機関誌編集，実践研究）および会計に係る事項

資料２

第 36 回理事会報告

１　開催日時

2021(令和３)年８月６日（金）16:00～19:00（オンライン）

２　議事内容

(1)　2020 年度会務報告

(2)　各委員会活動報告及び活動計画

①　研究推進委員会
②　国際交流委員会
③　機関誌編集委員会
④　実践研究委員会

(3)　学会賞について

以下の２名の書著について理事会で審議され，学会賞の受賞が決定した。

宇都宮　明子　会員
『新しい歴史教育論の構築に向けた日独歴史意識研究－構成的意味形成を図る日本史授業開発のために－』（風間書房，2020）

張　建　会員
『中国の教育格差と社会階層－中等教育の実像』
（東京電機大学出版，2021）

(4)　2020 年度決算及び会計監査

(5)　2021 年度予算案について

(6)　会則他諸規定の見直しＷＧ報告

会則他諸規定の見直しＷＧについて設立の趣旨説明や経過報告があり，今後理事の意見を集約しながら進めていくことが確認された。

(7)　第 36 回研究大会について

2022 年第 36 回研究大会は，日本大学（黒田友紀大会準備委員長）にて，オンラインで開催

(8)　その他

資料３

２０２０年度　研究推進委員会活動報告

研究推進委員会委員長：原 田 信 之

１．研究推進委員会の構成

委員長　　原田信之（名古屋市立大学）
副委員長　菅原　至（上越教育大学）
委　員　　田中　謙（日本大学）
　　棚野勝文（岐阜大学）
　　三村隆男（早稲田大学）
　　矢嶋昭雄（東京学芸大学）
幹　事　　福島正行（盛岡大学）

２．3ヶ年を展望した研究大会課題研究のテーマ

「教師教育の高度化におけるミドルリーダーの養成」

2019年　教職大学院におけるミドルリーダー育成の実態と課題
　　―ＭＬの位置と養成ターゲット―

2020年　教職大学院で育成するミドルリーダーの専門的力量とは
　　―ＭＬに求められる教師力とその育成課題―

2021年　教職実践知の継承に教職大学院はどのように貢献できるのか（仮）
　　―教師教育の高度化とＭＬの役割―

３．研究大会（岩手大学）延期による措置

・2021年1月23日ＺＯＯＭ配信による実施
司会・進行：原田信之（名古屋市立大学）・田中謙（日本大学）
登壇者：安藤知子（上越教育大学）・三村隆男（早稲田大学）・鈴木久米男（岩手大学）

４．年報第3号課題研究関連の投稿論文

投稿論文１点に対し、研究推進委員会として３名の査読者を立てて対応した。

５．会計報告

研究推進関連図書購入費：30,534円

残額：119,466円

２０２１年度　研究推進委員会活動計画案

１．研究推進委員会の構成

委員長　　原田信之（名古屋市立大学）
副委員長　菅原　至（上越教育大学）
委　員　　田中　謙（日本大学）
　　棚野勝文（岐阜大学）
　　三村隆男（早稲田大学）
　　矢嶋昭雄（東京学芸大学）
幹　事　　福島正行（盛岡大学）

２．研究推進委員会（研究大会課題研究）のテーマ：
「教師教育の高度化におけるミドルリーダーの養成」

2019 年（2020 年度 ZOOM 開催）
　　教職大学院におけるミドルリーダー育成の実態と課題
　　―ＭＬの位置と養成ターゲット―

2020 年研究大会（岩手大学）
　　教職大学院で育成するミドルリーダーの専門的力量とは
　　―ＭＬに求められる教師力とその育成課題―
　　司会・進行：菅原　至（上越教育大学）・田中　謙（日本大学）
　　登壇者：浅野あい子・矢嶋昭雄（東京学芸大学）
　　安藤雅之（常葉大学）
　　原田信之（名古屋市立大学）

2021 年研究大会（未定）
　　教職実践知の継承に教職大学院はどのように貢献できるのか（仮）
　　―教師教育の高度化とＭＬの役割―

３．本年の活動計画案

（１）研究大会（未定）課題研究（3 ヶ年の最終年度）
　　司会・進行：原田信之（名古屋市立大学）、福島正行（盛岡大学）
　　登壇者：菅原　至（上越教育大学）
　　棚野勝文（岐阜大学）
　　検討中

（２）公開研究会（実践研究委員会主催）への協力？

４．予算案

（１）収入　　150,000 円（年報所定経費除く諸経費を含む）

（２）研究大会（未定）「課題研究」
　　①非会員登壇者への交通費・謝礼：未定
　　②会議費・課題研究打ち合わせ（弁当・茶など）：10,000 円
　　③その他
（３）予算執行について
　　⇒研究活動の日常化、その成果として研究推進委員会を中心とする図書の出版
　　各期（3 ヶ年）の予算措置の中で、未消化分予算を繰り越して執行することについて

2020 年度　年報編集委員会活動報告

年報編集委員会委員長：原田 信之

１．年報編集委員会の構成

編集委員長：原田信之（研究推進委員会 委員長）
編集委員　：金井香里（実践研究委員会 委員長）
　　中山博夫（国際交流委員会 委員長）
編集幹事：田中　謙（研究推進委員会）
　　福島正行（同）
　　吉田尚史（実践研究委員会）
　　醍醐身奈（国際交流委員会）

２．『日本学校教育学会年報第 3 号』編集作業

・研究推進委員会発表者（１本）、実践研究発表者（２本）、国際交流時発表者（１本）への原稿投稿依頼
・各委員会において投稿論文の査読
・キーワード、英文タイトル、形式等の確認作業、不足部分の依頼
・装丁、目次、奥付等作成作業
・原稿版組み作業
・印刷会社入稿
・原稿校正の依頼
・最終チェックによる細部の調整
・印刷完了・学会事務局へ配送
・会計処理

３．『日本学校教育学会年報第 3 号』

仕様：A5 版、表紙：特色１色＋モノクロ１色、マットコート厚紙、無線綴じ製本
総頁数：６２頁
印刷数量：４５０冊
経費：２２４,２３５円（@498.30 円）※配送料業者負担（実質値引）
※支出項目：機関誌買取代にて支出

2021 年度年報編集委員会活動計画案

１．年報編集委員会の構成　※下線は 2021 年度委員予定

編集委員長：原田信之（研究推進委員会 委員長）
編集 委員 ：金井香里（実践研究委員会 委員長）
中山博夫（国際交流委員会 委員長）
山崎保寿（機関誌編集委員会 委員長）
鈴木久米男（大会準備委員長）
編集 幹事：田中　謙（研究推進委員会）
福島正行（同）
吉田尚史（実践研究委員会）
醍醐身奈（国際交流委員会）

２．『日本学校教育学会年報第 4 号』編集作業案

①論文投稿要項第１項に基づく投稿論文の募集
学会企画（一ノ関）の報告文も対象に含める。

②2022 年 2 月 20 日を年報編集委員会（編集委員長又は編集委員）への提出締切とする
各委員会内で査読し、査読審査後、3 月 20 日までに掲載可とした論文等を年報編集委員長にメールで送付する。

③編集作業・校正作業

④製本完了：2022 年 7 月初予定

３．『日本学校教育学会年報 4 号』予算

仕様：A5 版、表紙：特色１色＋モノクロ１色、マットコート厚紙、無線綴じ製本
総頁数：？？頁（参考：第 1 号 100 頁、第 2 号 94 頁、第 3 号 62 頁）
印刷数量：４５０冊
経費：２５～３２万円　（頁数による）
※支出項目：機関誌買取代にて支出
※特別な送料、編集費等が発生する場合には、研究推進委員会活動経費から支出予定。

資料４

国際交流委員会 2020 年度活動報告・2021 年度活動計画案

国際交流委員会委員長：中山博夫

１．2020 年度の活動報告

① 海外スタディツアー中止

・ 新型コロナウィルスの影響で会員の職場では海外出張が認められない状況であった。また、海外のほとんどの国・地域において、日本からの渡航者の入国制限がされていたため、海外スタディツアーを中止とした。

② 国際交流委員会オンライン研究会の実施

・ 国際交流委員会のオンライン研究会を年度内に 3 回実施した。3 回の研究会すべて定員 23 名に近い参加者があった。

9 月 26 日「Covid-19 パンデミックと学校教育」ミニ・シンポジウム

（1 時間半ほどで 5 か国の状況について情報共有して、ポストコロナについて語り合う）

・ 台湾：林尚示会員（委員）・林明煌会員（副委員長）

・ 中国：牛志奎会員（委員）

・ マレーシア：徳永誠氏

（元マレーシア政府観光局マネージャー、KL 在住大学院生）

・ タイ：チャンタナ・チャンバンチョン博士（ナレスワン大学）

・ 日本：隅内利之会員（隅内教育研究所所長、青梅市教育委員会）

10 月 31 日「マレーシアと日本の教育交流」

・ 副田雅紀氏（マレーシア科学大学日本文化センター所長）

12 月 19 日「SDG s と学校教育」

・ チャールズ・ンブリ・ボリコ博士

（国連 FAO 駐マダガスカル事務所長）

③ 年報第 3 号応募論文

・ 第 1 回研究会でシンポジストを務めた隅内利之会員が年報に論文を応募した。委員会では厳正に査読を行った。

④ 研究大会（岩手大学大会）国際交流委員会ラウンド・テーブル

・ 多田孝志会員、林明煌会員、牛志奎会員に話題提供を依頼し、海外スタディツアーをテーマとしたラウンド・テーブルを行う。

⑤ 国際交流委員会図書出版

・ 国際交流委員会委員・幹事に加え、国際交流委員会オンライン研究会参加者に論文・実践記録執筆を依頼し 10 月に図書を出版できるように計画が進んでいる。

２．2021 年度の活動計画（案）

① 海外スタディツアー中止

・ 国際交流委員会のメインの活動ではあるが、新型コロナウィルスが猛威をふるっている現状から考え、海外スタディツアーの実施は断念せざるえない。

② 国際交流委員会オンライン研究会の実施計画

・ 国際交流委員会オンライン研究会を 3 回実施したい。テーマは現時点での仮題である。

10 月下旬：地球環境に対応した学校教育（講演）

講師：石田好広会員（目白大学、環境教育・ESD 論）

司会：醍醐身奈幹事

11 月下旬：若手研究者が語るポストコロナの学校教育

（若手教員・博士院生によるミニシンポ）

シンポジスト：

小林淳一会員（北海道教育大学、教師教育）

周勝男会員（兵庫教育大学連合大学院、国際理解教育）

峯村恒平会員（目白大学、キャリア教育）

コーディネーター：林尚示委員

3 月下旬：グローバル時代の学校教育（講演）

講師：多田孝志常任理事（金沢学院大学、共創型対話論）

司会：南美佐江委員

③ 年報第 4 号応募論文

・ 国際交流委員会オンライン研究会での講師･シンポジストから論文応募者を募る。

④ 国際交流委員会図書出版計画

・ 国際交流委員会委員・幹事に加え、国際交流委員会オンライン研究会参加者の中から執筆者を選び論文・実践記録執筆を依頼し図書を出版する。

資料５

2020 年度機関誌編集委員会活動報告・2021 年度活動計画

機関誌編集委員会委員長：山﨑　保寿

1　常任編集委員会の構成

委 員 長　山﨑　保寿（松本大学）
副委員長　小西　尚之（金沢学院大学）
委　　員　大越　啄櫻（新潟市立南万代小学校）　奥泉　敦司（金沢学院大学）
　　黒田　友紀（日本大学）　松井千鶴子（上越教育大学）
　　望月　耕太（神奈川大学）　鈴木　　瞬（金沢大学、幹事兼務）
幹　　事　鈴木　　瞬（金沢大学）　木下　　豪（筑波大学（院）・日本学術振興会特別研究員）

2　機関誌編集委員会の主な活動

(1) 編集会議関係（zoom によるオンライン方式（事前に会議内容・方法を伝達、メール、電話を併用して実施）

2020 年 11 月 15 日　第 1 回機関誌常任編集委員会（主要議題：第 36 号編集方針、編集スケジュール、特集テーマの設定、投稿方法（メール添付併用）について）
2020 年 12 月 20 日　機関誌編集委員会より「機関誌第 36 号の編集方針及び投稿論文等の募集について」を学会事務局から会員宛送付（投稿締切：2021 年 2 月 28 日）
2021 年 1 月 24 日　第 2 回機関誌常任編集委員会（主要議題：特集論文の構成および執筆者について）
2021 年 3 月 7 日　第 3 回機関誌常任編集委員会開催（主要議題：投稿論文の査読者選定）
2021 年 4 月 11 日　第 4 回機関誌常任編集委員会開催（主要議題：第一次査読結果の検討、第 35 回研究大会のラウンドテーブルについて）
2021 年 5 月 30 日　第 5 回機関誌常任編集委員会開催（主要議題：第二次査読結果の検討と判定）
2021 年 6 月 3 日　第 6 回編集委員会（最終判定、ラウンドテーブルの提案内容）
2021 年 7 月 18 日　掲載予定論文の再々修正状況を最終確認
2021 年 8 月 5 日　第 7 回編集委員会（ラウンドテーブルの提案内容）
2021 年 10 月　機関誌第 36 号発行予定

(2) ラウンドテーブル関係

編集委員会として、第 35 回研究大会（岩手大学、オンライン方式）のラウンドテーブルに、実践的研究論文の書き方をテーマとして参加することにした。

司会：松井千鶴子（上越教育大学）、話題提供者：山﨑保寿（松本大学）、小西尚之（金沢学院大学）、大越啄櫻（新潟市立南万代小学校）

3　機関誌第 36 号関係

(1) 特集論文　テーマ「『深い学び』を実現するための実践―その評価・検証・方策を求めて―」

①大越啄櫻（新潟市立南万代小学校）　②原田信之（名古屋市立大学）　③廣瀬裕一（上越教育大学名誉教授）　④藤野智子（東京学芸大学）　⑤松田淑子（金沢大学→日本大学）　⑥望月耕太（神奈川大学）

(2) 投稿論文

①自由研究論文：15 編（内掲載 3、実践的研究論文への区分変更 1、外不受理 2)、②実践的研究論文：8 編(内掲載 1、自由研究論文からの区分変更 1、実践研究ノートへの区分変更 2)、③実践研究ノート：5 編(内掲載 2、実践的研究論文からの区分変更 2)

(3) 第 35 回研究大会（中止）の代替措置

①ポスター発表（オンライン方式）の概要（学会事務局：蜂須賀洋一）

(4) 研究余滴　　茜谷佳世子、牛渡淳、和井田清司

(5) 図書紹介

①石森広美「『生きる力』を育むグローバル教育の実践」明石書店、2019 年、2200 円税込（担当：多田孝志）

②鈴木瞬「子どもの放課後支援の社会学」学文社、2020 年、6600 円税込（担当：小西尚之）

③多田孝志・米澤利明「新時代の教職入門―共創型対話学習で次世代の教師はこうして養成する！」北國新聞社、2020 年、1980 円税込（担当：佐々木幸寿）

④樋口綾子「『決める力』をもった子ども達」梓書院、2021 年、1100 円税込（担当：青木一）

⑤山﨑保寿「キャリア教育が創出する新たな教育環境―地域連携で生み出す主体性と価値―」松本大学出版会、2020 年、2420 円税込（担当：黒田友紀）

4　2021 年度活動計画

(1) 機関誌『学校教育研究』第 37 号の編集･発行を行う。

(2) 投稿・審査結果の連絡等についてメール方式を検討する。

(3) 会則見直しＷＧの結論を踏まえ、「日本学校教育学会機関誌編集規程」「日本学校教育学会論文投稿要項」について、会則、年報との関係、実態を踏まえて検討を継続する。

(4) 課題研究の掲載について、年報との関係を検討する。

実践研究委員会　2020 年度活動報告および 2021 年度活動計画

実践研究委員会委員長：金井香里

１．委員会の構成

委 員 長　金井　香里（武蔵大学）
副委員長　佐々木　幸寿（東京学芸大学）
幹　　事　吉田　尚史（教職員支援機構）
委　　員　藤田　武志（日本女子大学）
委　　員　城内　君枝（埼玉県滑川町立月の輪小学校）
委　　員　安藤　雅之（常葉大学）

２．2020 年度の活動報告

①　公開研究会の企画と実施

日　時：10 月 25 日（日）　13:00～15：30
手　段：Zoom によるオンライン公開研究会
内　容：テーマ　「ICT 教育を学校現場でどう進めるか」
登壇者：① 城内君枝、贄田亮（埼玉県滑川町立月の輪小学校）
「自ら学ぶ児童の育成―ICT 教育に向けて―」
② 登本洋子（桐蔭学園情報科）
「情報活用能力の育成を踏まえた『探究』の授業の展開」
③ 高橋　純（東京学芸大学）「1 人 1 台端末環境における授業づくり」

②　公開研究会の登壇者による年報への投稿論文執筆の支援

投稿者 1 名に対して本委員会委員 2 名が査読を行い、文書を介して執筆支援を行った。最終的には、投稿者 3 名のうち 2 名の論文が年報掲載に至った。査読会議は、オンラインまたはメールにて実施（うち、オンラインによる会議は、第 1 回 3 月 3 日、第 2 回 3 月 20 日、第 3 回 4 月 17 日）。

③　岩手県一関市教育委員会と連携した学力向上支援事業

※ただし、下記①②は、新型コロナウィルス感染拡大予防のため中止。③④は、オンラインにより実施。

日 時：① 2020 年 9 月 4 日（金）9 時 15 分～16 時 40 分
② 2020 年 12 月 1 日（火)10 時 00 分～16 時 40 分
③ 2021 年 6 月 4 日（金)13 時 00 分～16 時 40 分
④ 2021 年 6 月 18 日（金)10 時 00 分～16 時 40 分

場所および講師：
① 一関市立藤沢中学校　小岩大教諭（東京学芸大学附属竹早中学校）
② 一関市立厳美小学校　加固希支男教諭（東京学芸大学附属小金井小学校）
③ 一関保健センター　小岩大教諭（東京学芸大学附属竹早中学校）

④ 一関市立厳萩荘小学校　加固希支男教諭（東京学芸大学附属小金井小学校）
内 容：会場校の授業参観および指導助言。講義・演習。
会場校での示範授業および授業研究会・講話。
対 象：一関市内小学校教職員、中学校数学担当教職員。

④ 第 35 回研究大会（オンライン）ラウンドテーブルの企画
日　時：8 月 7 日（日）　16:50～18：10
内容：(テーマ)「教育委員会の学力向上政策への外部支援の在り方」
発表者：南浦　元（一関市教育委員会主任指導主事）
加固　希支男（東京学芸大学附属小金井小学校）
小岩　　大（東京学芸大学附属竹早中学校）
コメンテーター：矢嶋　昭雄（東京学芸大学）
司 会：安藤　雅之
金井　香里
企 画：佐々木　幸寿

３　2021 年度の活動計画（案）
① 秋の公開研究会
日　時：10 月 17 日（日）2 時間程度
手　段：Zoom 利用によるワークショップと研究方法論セミナー（2 部構成）
内　容：(テーマ)「実践研究論文作成セミナー」実践研究の論文作成を目指す大学院生や実践者などを対象に、論文作成を支援するセミナーを実施。
企画者：藤田武志

② 岩手県一関市教育委員会と連携した学力向上支援事業
日 時：2021 年 9 月 23 日（水）10 時 00 分～16 時 40 分
場所および講師：
一関市立川崎小学校　加固希支男教諭（東京学芸大学附属小金井小学校）
内 容：会場校の授業参観および指導助言。講義・演習
会場校での示範授業および授業研究会・講話
対 象：一関市内小学校教職員、中学校数学担当教職員

③ 学会研究大会ラウンドテーブルの発表者ないし公開研究会の参加者による年報への投稿論文執筆の支援
昨年度同様、投稿者 1 名に対して本委員会委員 2 名が査読を行う形で、文書を介しての執筆支援を行う。対象者は今後決定。

④ 第 36 回学会大会ラウンドテーブルの企画

以上

資料７

日 本 学 校 教 育 学 会

2020年度（2020年8月～2021年7月）会計報告

１．収入

項　　目	予　算	決　算	備　　考
1.　会費	2,362,500	2,633,000	納入件数：376　（2021年7月17日まで）
2.　機関誌等頒布	5,000	4,928	書籍販売分
3.　寄付金	0	0	
4.　前年度より繰入	2,176,248	2,176,248	2020年7月17日時点
5.　その他	0	5	ゆうちょ銀行利子
計	4,543,748	4,814,181	…①

２．支出

項　　目	予　算	決　算	備　　考
1.　理事会費	350,000	372,900	zoomライセンス使用料
2.　研究推進委員会	150,000	0	
3.　実践研究委員会	150,000	0	
4.　国際交流委員会	150,000	150,000	
5.　機関誌編集委員会	250,000	250,000	
6.　機関誌買取代	1,350,000	985,600	『学校教育研究』第３５号
7.　研究大会補助金	400,000	400,000	第35回研究大会
8.　学会褒賞費	30,000	20,000	学会賞副賞(2名)
9.　情報管理費	80,000	26,767	サーバー維持管理費
10.　郵送通信費	330,000	233,040	会員宛資料、機関誌、案内等送料
11.　事務局補助員等謝金	120,000	68,000	
12.　消耗品費	50,000	35,081	事務用品、学会封筒代
13.　教育関連学会連絡協議会	10,000	10,000	
14.　理事選挙費	0	0	次年度実施
15.　雑費	15,000	1,420	消費税、振込手数料等
16.　予備費	1,108,748	4,400	弔電代
計	4,543,748	2,557,208	…②

収入（①4, 814, 181円）　－　支出（②2, 557, 208円）　＝　次年度繰越金（2, 256, 973円）

以上、報告いたします。

2021年7月27日　　事務局　蜂須賀　洋一

湯澤　　卓

上記内容について根拠資料と照合の上、監査いたしましたが、報告事項に相違ありません。

2021年　7月27日　　監事　中村映子　印

2021年　7月27日　　監事　茂木輝之　印

資料８

日 本 学 校 教 育 学 会
2021年度（2021年8月～2022年7月）予算（案）

１．収入

項　　目	2020年度決算	2021年度予算案	備　　考
1.　会費	2,633,000	2,394,000	7,000円×会員数456名×0.75
2.　機関誌等頒布	4,928	5,000	販売分
3.　寄付金	0	0	
4.　前年度より繰入	2,176,248	2,256,973	2021年7月20日現在
5.　その他	5	0	ゆうちょ銀行利子
計	4,984,074	4,655,973	

２．支出

項　　目	2020年度決算	2021年度予算案	備　　考
1.　理事会費	372,900	350,000	
2.　研究推進委員会	0	150,000	
3.　実践研究委員会	0	150,000	
4.　国際交流委員会	150,000	150,000	
5.　機関誌編集委員会	250,000	250,000	
6.　機関誌買取代	985,600	1,350,000	『学校教育研究』第36号 『年報』第3号
7.　研究大会補助金	400,000	400,000	
8.　学会褒賞費	20,000	30,000	学会賞副賞
9.　情報管理費	26,767	80,000	サーバー維持管理費、J-Stage作業
10.　郵送通信費	233,040	330,000	会員宛資料、機関誌、案内等送料
11.　事務局補助員等謝金	68,000	120,000	
12.　消耗品費	35,081	50,000	事務用品、学会封筒代
13.　教育関連学会連絡協議会	10,000	10,000	
14.　理事選挙費	0	100,000	
15.　雑費	1,420	15,000	消費税、振込手数料等
16.　予備費	4,400	1,120,973	
計	2,557,208	4,655,973	